

263年

景元四年（魏）

皇帝

曹奂（字景明・魏常道公）

皇后

（空位） 卞氏

皇太子

三公（魏）

晋公： 司馬昭（相国）

相国： 司馬昭（晋公）

太傅：司馬孚（前太尉）

太保： 鄭冲（前司徒）

太尉：高柔（前司徒） （死亡） 鄧艾（前征西將軍）

司徒：鄭冲（前司空） 鍾会（前鎮西將軍）

司空：王祥（前司隸校尉）

その他の要職（魏）

?尚書事：司馬昭（大將軍）

太常：

光祿勳：

衛尉：

太僕：

廷尉：

大鴻臚：

宗正：

大司農：

少府：

大將軍：司馬昭（大都督を加号）

驃騎將軍：王昶

車騎將軍：孫壹

衛將軍：？

地方官

司隸校尉：

冀州牧：

幽州牧：

并州牧：

青州牧：

徐州牧：

兗州牧：

揚州刺史：？

雍州刺史：諸葛緒

交州牧：孫壹？

梁州：

主な事件

- ▶ 四年春二月、また大將軍に爵位を進め九賜を具えるように命じた。前の詔と同様であった。しかしまた固辭して沙汰止みとなった《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》
- ▶ 夏五月、詔に曰わく「蜀は小國で土地は狭く民は寡ない。しかし姜維は虐げてそれらを酷使し、止める気もない。先年破れた後、なお沓中に留まって耕作している。羌族を勞役し民は命を全うできない。人を致して人に致されずが兵家の上略だ。蜀が恃れ頼るのは唯姜維だけである。今、征西將軍の鄧艾に諸軍を督帥させ、甘松に赴き沓中で姜維と交戦せよ。雍州刺史の諸葛緒は諸軍を督して武都に赴き、高く樓を築き、首尾応じて討て。もし姜維を捕らえたならば、東西より並進して巴蜀を掃滅せよ」また鎮西將軍の鍾會に命じて駱谷經由で蜀を討たせた。《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》秋、蜀征討の詔勅が下った《三国志魏書鄧艾伝》
- ▶ 秋九月、太尉の高柔が薨ず《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》
- ▶ 冬十月甲寅、また大將軍に位爵を進め九賜を具えるよう命じた。前の詔と同様であった。《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》
- ▶ 十月癸卯、皇后に卞氏を立てる《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》
- ▶ 十一月、大赦《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》
- ▶ 十一月、鄧艾、鍾會が率いる軍は蜀を征討し至る所で勝利する。《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》
- ▶ 十一月、蜀主の劉禪が艾に降る。巴蜀は皆平定される。《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》
- ▶ 十一月、魏帝は晉公の司馬昭に命じて相國と為し百揆を総攬させる。侍中、大都督、尚書は返した。《晋書帝紀太祖文帝昭》
- ▶ 十二月庚戌、司徒の鄭冲を太保と為す。《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》
- ▶ 十二月壬子、益州を分けて梁州を置く。《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》
- ▶ 十二月癸丑、特に益州の土民を赦し、また五年間租賦之半分を免除する。《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》

- ▶ 十二月乙卯、征西將軍の鄧艾を太尉に、鎮西將軍の鍾會を司徒と為す。《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》十二月、蜀征討の功績から詔勅によって鎮西將軍鍾會を司徒に任じ、県侯として領邑一万戸を加増した。二人の子を亭侯に取り立て領邑千戸を与えた。《三国志魏書鍾會伝》
- ▶ 皇太后が崩御する。《三国志魏書三少帝紀陳留王奐》十一月、明元郭皇后が崩御した《三国志魏書鍾會伝》

誕生者

死没者

諸葛瞻（蜀の丞相諸葛亮の子）

鍾イク（鍾会の兄・病死）